

宇和島市立結出小学校とのオンライン交流

【内容】 国語科「わたしたちの学校じまん」の学習で、自分たちの学校や地域の良さについて、オンラインで交流した。

【使用アプリ】 ロイロノート、Zoom

【事例紹介】 宇和島市立結出小学校と川滝小学校の全校児童で、オンライン交流を行った。まず、自己紹介を行い、好きなものについて伝え合った。その後、学校のじまを紹介し合った。川滝小学校からは、全校みんなで集まって食べる「ランチルーム給食」や、保護者、地域の方と一緒に楽しむ「いもたき大会」、誕生日の友達をみんなで祝う「お誕生日集会」等について話した。結出小学校からは、正門の前が海で、校舎の後ろは山だと紹介された。途中でクイズもあり、楽しく紹介を聞いた。最後に、みんなでジェスチャーゲームを行った。子どもたちは一生懸命伝え合い、ゲームをととても楽しんでいった。

学校紹介では、Chromebookの画面を共有しながら、学校のじまを伝え合う中で、川滝小学校と他の地域との違いや共通点をたくさん見付けることができた。初めて交流する友達に初めは少し緊張していたが、交流後は「楽しかった。」「宇和島に行ってみたくなった。」「また交流したい。」と、うれしそうに話していた。



【終わりに】 今回のオンライン交流では、初めて規模が同じぐらいの学校と交流した。子どもたちが全員笑顔で参加していたのが印象に残った。オンライン交流を通して、自分たちの学校や地域の良さを再確認したり、他の地域や学校に興味を持ったりしていた。離れて生活している友達とオンラインで交流することは、子どもたちの学びを高めることにとっても効果的だと感じた。また、本校は小規模校で、児童同士が話し合う活動が少ないため、自分の意見を伝えることに、苦手意識を持つ児童もいた。そこで、ICT機器を使って、他校の児童と交流を重ねた。近隣校との交流を通して、多人数で学習する雰囲気を感じ取り、自信を持って意見を伝える仲間の姿から、自分も意見を伝えようと、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。現在、自分の意見を伝えることに少しずつ自信を持てるようになってきている。今後ともICT機器の活用場面や方法を、全教職員で研修していきたい。

☆教育委員会指導主事より☆ 人数が少ないことに起因する課題をICTの活用によって克服した事例の紹介です。現行学習指導要領前文には「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え・・・」とあります。その実現のためにはまず、多様な他者の価値観に触れることが必要です。以前拝見した他地域とのオンライン授業では、日常生活の当たり前が四国中央市とは全く違い、新鮮な驚きを得たことを記憶しています。そこで生活する児童との交流は多くの川滝小の児童にとって新たな価値観と出会える、大変貴重な場となったことでしょう。